



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校 令和 2年 7月22日

”手塩にかける“

校長 菅原 透



本日、1学期が終了。明日から待ちに待った夏休み。子ども達は熱い日差しを受けてプール通い。そして、東京オリンピックが開幕!…となる予定の夏でした。しかし、状況は一変。学校ではもう少し勉強が続きます。8月に入ってから授業をするのは自身も初めてです。皆様も、感染予防へ高い意識をもちながら、新たな日常を過ごしてまいりましょう。

毎朝、登校した子ども達がやること。それは、植物への水かけ。ロータリー付近に1年生の朝顔があり、メンコちゃんが一生懸命働いています。最近花が咲き「やった」と歓声を上げる子がいる一方「まだ咲かない」と落胆する子もいます。愛情たっぷりの水が毎日注がれていますので、どれも育ちはすごいのです。花の咲き方はまさしく個性。早く大きくなって花を咲かせるもの、小さくても見事な花を咲かせるもの。大きくなってまだまだの大器晩成型。育てる方にとっては気が気ではありませんが、朝顔は自分なりに精一杯花を咲かせようとがんばっています。もう少ししたら「咲いた」と得意満面の笑顔の大輪が満開になるでしょう。

我が家に松の木があります。母から「剪定してもらったら」と言われ、はじめはプロに依頼して…と思っていました。ある時、「ちょっとやってみようか」と一念発起?!。剪定などとはお



こがましい。モサモサになっているところを我流にて手を付け始めました。道半ばで何とも言えませんが、わかったことがひとつ。それは愛着が湧いてくること。知り合いから「1日15分手をかけただけで違う」と聞き、時間を見つけては手をかけているのですが、少しずつ若い緑に生まれ変わり、勢いもついているように…(素人考えです)。モサモサも少し解消され、それなりに…。最近、未着手のところを「自分がやらないで誰がやる」と自身を鼓舞するまでになりました。

「親である」と「親になる」ことは違うそうです。子どもができれば、誰でも「親である」。しかし、子どもを支え導く安心基地となれるよう励むのが「親になる」ことだとか。子育てにマニュアルはないので、先達から学び、手探りで、良かれと思う方法を試すしかありません。その中で様々経験し、親として成長するのですね。手塩にかけるとは、自らいろいろと世話をして大切に育てることだそうです。1年生の朝顔も、自身の松も、いつのまにか手塩にかけていたのでしょうか。はじめは、そこにあるから始めたこと。いつの間にか、情が移り、願いを込めて、懸命にかかわっていたのです。

今年は特別、いえ、これからはこれが当たり前になるのかもしれませんが。今年の夏はなお一層、我が子を手塩にかけ、笑顔の花をたくさん咲かせましょう。